

事務局：河野通広 大野若人 (会計)	連絡先 河野 大野	TEL&fax : 045-892-4164 携帯 : 090-3803-0835	携帯 : 090-9238-7292 mail : nkono@trust.ocn.ne.jp
--------------------------	--------------	--	---

2017年1月、2017年2月の教室予約 (中国語教室杏の会)

月日	クラス名	教室	時間帯	教師	月日	クラス名	教室	時間帯	教師
1月 7日			10時~12時		2月 4日	新講座		10時~12時	
	初級A	701	10時~12時	崔芳芳		初級A	706	10時~12時	崔芳芳
	中級	703	10時~12時	華雪梅		中級	707	10時~12時	華雪梅
	初級B	703	13時~15時	談元元		初級B	707	13時~12時	談元元
	入門A	704	13時~15時	李瑋		入門A	712	13時~15時	李瑋
	新規入門	701	13時~15時	崔芳芳		新規入門	706	13時~15時	崔芳芳
	上級	704	15時~17時	華雪梅		上級	707	15時~17時	華雪梅
	入門B	703	15時~17時	談元元		入門B	706	15時~17時	談元元
1月 14日			10時~12時		2月 11日	新講座		10時~12時	
	初級A	706	10時~12時	崔芳芳		初級A	706	10時~12時	崔芳芳
	中級	712	10時~12時	華雪梅		中級	707	10時~12時	華雪梅
	初級B	701	13時~15時	談元元		初級B	707	13時~15時	談元元
	入門A	712	13時~15時	李瑋		入門A	706	13時~15時	李瑋
	新期入門	706	13時~15時	崔芳芳		新規入門	705	13時~15時	崔芳芳
	上級	701	15時~17時	華雪梅		上級	707	15時~17時	華雪梅
	入門B	706	15時~17時	談元元		入門B	706	15時~17時	談元元
1月 21日			10時~12時		2月 18日	新講座		10時~12時	
	初級A	705	10時~12時	崔芳芳		初級A	701	10時~12時	崔芳芳
	中級	701	10時~12時	華雪梅		中級	704	10時~12時	華雪梅
	初級B	705	13時~15時	談元元		初級B	704	13時~15時	談元元
	入門A	707	13時~15時	李瑋		入門A	707	13時~15時	李瑋
	新規入門	701	13時~15時	崔芳芳		新門	701	13時~15時	崔芳芳
	上級	701	15時~17時	華雪梅		上級	704	15時~17時	華雪梅
	入門B	705	15時~17時	談元元		入門B	701	15時~17時	談元元
1月 28日			10時~12時		2月 25日	新講座		10時~12時	
	初級A	705	10時~12時	崔芳芳		初級A	704	10時~12時	崔芳芳
	中級	708	10時~12時	華雪梅		中級	706	10時~12時	華雪梅
	初級B	705	13時~15時	談元元		初級B	706	13時~15時	談元元
	入門A	休講	13時~15時	李瑋		入門A	休講	13時~15時	李瑋
	新規入門	708	13時~15時	崔芳芳		新規入門	704	13時~15時	崔芳芳
	上級	708	15時~17時	華雪梅		上級	706	15時~17時	華雪梅
	入門B	705	15時~17時	談元元		入門B	704	15時~17時	談元元
		15時~17時				15時~13時			

	<h1>連絡帳</h1>				
	中国語教室・杏の会				
	主催: NP法人神奈川県日中友好文化教育センター				
	第198号 2017年 1月発行				

新年おめでとうございます。今年も宜しく御願ひ致します。

事務局 河野通広

杏の会は創設以来17年半になりますが、この間順調に推移してきました。昨年も各教室とも活気ある雰囲気でのレッスンが継続できたことはひとえに講師や会員の皆様方の協力や学習意欲のおかげであると感謝しております。12月4日には、横浜市文化技能センターに於いて、予定通り、餃子づくりパーティーを開催し、楽しく有意義な時間を持つことが出来ました。これも、ひとえに皆様方のご協力のおかげだと、会の運営の役割を果たす事務局の一員として深く感謝いたします

昨年の出来事で世界的に見て最も影響力の大きな事はアメリカの大統領選にトランプ氏が当選した事でしょう。ヨーロッパやアジア諸国の中でも国のトップの交代の選挙が行われる事になりトランプ的な考えを持った人が当選したり当確予想の人が多く様で今後世界の政治・外交・経済が大きく変化するのではないかと懸念されていますが、私達には傍観するしかありません。

私達が時代の変化や進歩のなかで、身近な事柄について考えることは大切だと思います。特にIT技術の進歩は素晴らしい。碁や将棋の有段者や名人位のプロと人工知能との対局で、再々後者が勝ったという記事に驚きました。私達にとって、もっと身近な事象としては、某テレビ局のレギュラー番組となった、“カラオケ大会”というのがあります。審査員は従来のような専門家が行うのではなく人工知能が全て担当するのです。舞台上の歌手の後方には、音の高低変化を示す縦軸と経時変化を示す横軸を持つ掲示板が配置され歌唱の進行に伴ってデータが記入され最終的に、歌唱した歌手に対する総合点が表示されるという仕組みです。私は最近のIT技術の進歩に関しては浅学非才ですが、人工知能の技術を生かした外国語の発音習得に貢献するような手法が開発されるのではないかと期待感を持つ様になりました。

そして連絡帳の昨年の7月号に掲載したように、“声調確認くん”というNHKの中国語講座が開発した人工知能を用いて、四声を主にした発音特訓を、テレビの中国語講座で利用していることを知りました。

私はこの“声調確認くん”を自分のスマホにダウンロードしてチェックしたところ、声調の訓練にはもってこいの方法だと認識したので毎週土曜日の杏の会の7教室中の上級クラスを除く6教室で、スマホの画面を県民センターから借用してきたテレビ画面に拡大し声調確認君を実際に使用してみる事にいたしました。従来のレッスンの進行を妨げていけないので、1レッスン2時間の中で教師の指導の下で1人当たり1-2分の発音練習で5人のクラスなら計5分-10分間を費やして“声調確認くん”利用の特訓を行ってきましたが、効果がありそうなので今しばらく教師や会員の皆さんの協力を得ながら継続したいと考えております。この方法は四声だけでなく発音全体の訓練にも役立つようです。人工知能を生かした外国語学習のための機器やソフトが今後も現れるかもしれません。それでは今年も宜しく御願ひ致します。

徐福と私

(2016. 12. 21) 神奈川県徐福研究会定例会で講演した要旨

華雪梅 (神奈川県大学大学院 歴史民俗資料学研究所)

一 徐福との出会い

徐福のことを初めて耳にしたのは中学歴史教科書の秦の始皇帝に関する紹介である。

司馬遷の「史記」の記録によると、泰山の封禪儀式が終わると、始皇帝は山東半島を巡り、瑯邪で石碑（琅邪台刻石）を建立した。始皇28年（紀元前219年）、徐福はそこで始皇帝に謁見したことがある。徐福は秦の始皇帝に、「東方の三神山（蓬萊・方丈・瀛州）に仙人が住んでいる」と具申し、したがって、始皇帝の命を受け、千人の童男童女を連れ、神秘性に富む三神山への探査を行った。

しかも、司馬遷の『史記』の巻百十八「淮南衡山列伝」によると、秦の始皇帝に、「東方の三神山に長生不老（不老不死）の霊薬がある」と具申し、始皇帝の命を受け、三千人の童男童女と百工（多くの技術者）を従え、五穀の種を持ち、東方に船出し、「平原広沢（広い平野と湿地）」を得て王となり、再び中国に戻ることはなかったとの記述がある。

つまり、始皇帝は長生不老（不老不死）の目的を達成するために、徐福などの方士に仙薬を求めさせた。「千古の大帝」と呼ばれる秦の始皇帝が求めた長生不老と方士徐福一行の仙薬探しは中学時代から興味深いと思った。当時の私はこれはただ儂い虚構の伝説であり、司馬遷の記録はあっても歴史の信憑性は低いと思っていた。

二 徐福の再認識

修士課程の指導教官王勇教授が代表者である中国最大級の科研プロジェクト「東亜筆談文献整理與研究」の研究助手として文献を収集した時、徐福に関する筆談史料を発見した。興味深いから、多くの史料と文献を調べて整理し、「第三次東亜筆談研究会：朝鮮通信使と日朝筆談」を主題とするシンポジウムで、『東アジアにおける徐福伝説——日朝筆談史料を中心として』という論文を発表した。

その時から、本気で徐福を研究する気持ちを持った。東アジアの代表である中国・日本・韓国において、徐福は一体どのような存在であるか、各時代の中日韓の人々にとっては、徐福が代表する意味、徐福を議論する目的も異なると思われる。歴史上の徐福と徐福のイメージについて紹介したが、筆者は興味深いのは今日の徐福伝承である。即ち、2000年続いてきた徐福のイメージはどのような形で伝承されているのか、どうして今まで伝承されているのか。したがって、これらの疑問を究明するために、徐福伝説が最も豊富な日本へ留学してきて、日本における徐福伝承を明らかにしたい。この目的を達成するために、神奈川大学の歴史民俗資料学研究所の博士後期課程に進学し、民俗学の視点から日本の徐福伝承を究明したい。

三 今までの徐福に関する調査

徐福に関する遺跡は北海道以外、日本全国各地に分布している。青森県から鹿児島県に至るまで、日本各地に徐福に関する伝承が残されている。徐福ゆかりの地として、佐賀県佐賀市、三重県熊野市波田須町、和歌山県新宮市、鹿児島県いちき串木野市、山梨県富士吉田市、宮崎県延岡市などが有名である。

今年の8月、筆者は伝説の数が最多の和歌山県新宮市に行って現地調査を行った。熊野徐福万燈祭は新宮市の徐福を記念する最も盛大な活動で、徐福供養式典と翌日の花火大会からなる。今年は第54回熊野徐福万燈祭を行った。8月12日午後、徐福供養式典は徐福公園で行われた。8月13日熊野徐福万燈祭のもう一つの重要な祭礼である花火大会が行われた。

9月、河野さんのご案内によって、神奈川県藤沢市の徐福子孫の墓を見学に行った。藤沢市の妙善寺という寺院には、徐福子孫のお墓があり、墓碑の記録によると、天文23年（1554）に造られたということが分かる。伝説によると、徐福は日本に四人の子供がいる。苗字は福岡・福島・福田などに変わり、先進文明を伝播するために、日本各地に分布している。神奈川県藤沢市の徐福子孫の墓は「福岡家」に属する。しかも、徐福集団

は日本に到着後、「徐」を使わずに、苗字を故国の「秦」にして暮らし、それから波田・波多・羽田・畑など「ハタ」と呼ぶ漢字をあてて名乗っていた。

それに加えて、10月下旬、田島会長のおかげで、富士山徐福フォーラム国際大会に参加し、国際大会で最先端の徐福研究の現状が分かり、多くの貴重な意見を頂き、本当にいい勉強になった。

四 今後の課題

近年、新宮の熊野徐福万燈祭の外に、中日の徐福に関する祭りが各地で行われるようになった。中国では徐福の出身地とされている江蘇省連雲港市で、1990年くらいから「贛榆徐福節」が行われている。この祭りに、徐福の研究に関連する日本人が招待されたりして、徐福をめぐる中日国際交流も始まっている。熊野における徐福の祭りを調査したが、これから江蘇省連雲港市における贛榆国際徐福節を実地調査する計画である。

現在の徐福研究は主に考古的・歴史的な視点からの、徐福伝説の虚実に関する研究である。例えば、徐福の生まれた場所はどこか、徐福は本当に日本に到着したのか、上陸場所はどこであるかなど問題は歴史的な文献を通しての研究が多くある。徐福伝説の虚実を確かめることは確かに重要なことであろうが、私が知りたいのは徐福伝説が日本でどのように伝えられているのか、そしてこの伝説はどのように日本人の日常生活と結びついたのである。従って、今後日本現存の徐福遺跡を手がかりにして、徐福伝説の日本伝播ルーツを探り、熊野の徐福伝承を中心に、徐福伝説と日本人の日常生活との結び付きを検討してみたい。



神奈川県徐福研究会定例会の会場（県民センター）



講演する華雪梅老師



神奈川県徐福研究会会長の田島女史の御好意で
華老師は初めて和服を着る機会に恵まれ御満悦



昨年10月に富士吉田で開催された徐福フォーラム
に参加した時富士山の姿は素晴らしかった